世界の主要拠点 （平成19年3月31日現在）

■国内

本　社	横浜				
営業拠点	仙台	郡山	盛岡	八王子	松本
	関東（さいたま）		太田	新潟	東関東（柏）
	名古屋	福井	静岡	浜松	大阪
	京都	岡山	福岡		
事 業 所	福井	加賀			

Sodick America Corporation
(San Jose)

Sodick, Inc.
(Chicago/NJ/L.A.)

本社／技術・研修センター

株式会社ソディックプラステック

Sodick Europe Ltd.
(U.K.)

福井事業所

Sodick Deutschland GmbH
(Germany)

Sodick (Thailand) Co.,Ltd.

Sodick Singapore Pte.,Ltd.

Sodick (H.K.) Co.,Ltd.

Sodick (Taiwan) Co.,Ltd.

Suzhou Sodick
Special Equipment Co.,Ltd.

ソディックホームページのご案内

http://www.sodick.co.jp/

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス　*ir@sodick.co.jp*

Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL：045-942-3111　FAX：045-943-5835
（証券コード：6143）

R100 PRINTED WITH SOY INK
本誌は、古紙配合率100%再生紙と、米国大豆協会認定の大豆インキを使用しています。

Business Report

第31期 事業報告書　平成18年4月1日～平成19年3月31日

株式会社 ソディック

展示会　IMTS,JIMTOFに出展

2年に1回9月に米国シカゴ市で行われるIMTS（International Machine Tool Show）及び同じく2年に1回11月に東京ビッグサイトで行われるJIMTOF（Japan International Machine Tool Fair）に出展し、積極的に営業展開を行うとともに当社が持つ技術力をアピールいたしました。

新事務所　欧州拠点拡充 旧東ドイツに事務所開設

欧州での放電加工機需要の高まりに対応するため東ドイツ事務所を開設しました。新事務所は旧東ドイツ地域の既存顧客へのサポートに加え、ポーランドやチェコといった東欧地域への販売拠点となります。またスイスの営業拠点を強化するほか、スロバキアにも将来技術センターを新設する予定です。

受　賞　日刊工業新聞「第49回（2006年）十大新製品賞 本賞」受賞 リニアモータ駆動ハイブリッドワイヤ放電加工機「Hybrid Wire：ハイブリッドワイヤ」

ワイヤ放電加工機の「超高精度加工」とウォータージェット加工機の「超高速加工」という二つの特長を併せ持つ、新時代のハイブリッド（複合）加工機「Hybrid Wire」（ハイブリッドワイヤ）が、日刊工業新聞「第49回（2006年）十大新製品賞 本賞」を受賞いたしました。
（'07.01.04発表）

WATERJET POWERED BY Flow

主な特長
- 荒加工（1stカット）において従来比3－100倍の驚異的な加工速度
- 下穴加工や中子処理が不要で無人化を実現

新工場　中国福建省の厦門市 ソディック厦門工場着工

会社創立30周年を迎えるにあたり近い将来「放電加工機のシェア世界No.1」を達成するため、多方面からの検討を重ねた結果、欧米や台湾他多数の外国優良企業が進出し、空港・港湾施設が整備されビジネスの国際化が進んでいる中国福建省の厦門市に新たな事業拠点を開設します。

株主の皆様へ　Message

Total Manufacturing Solution

創造 実行 苦労克服により ものづくりに貢献するという思い

皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社は昨年、設立30周年を迎えることができました。これもひとえに株主の皆様のご支援の賜物と厚く御礼申し上げます。

現在、工作機械の市場は、成長を続ける中国を始めインド、東欧と世界的拡大を続けております。このような状況の中、当社は“世界シェアNo.1”を目指し新たなステップへと進んでいます。

販売面においては国内営業部門の独立、販売会社の設立を4月2日付けで行いました。これにより販売権限の大幅な委譲が行われ、その地域に合った販売戦術を明確にし、よりスピーディーな決定が可能になりました。

また、生産面においても新たな生産拠点として中国・福建省に厦門（アモイ）工場を新設（2007年9月操業予定）し、生産能力の向上を目指します。操業3年後には、当社NC放電加工機の年間生産能力は5,500台となり、市場の旺盛な需要に応えることが可能になります。さらに既存の蘇州工場との連携を強化し、生産設備の合理化・人材交流の活発化をはかることにより、更なる品質向上とコスト低減も追求いたします。

これからも“ものづくりに貢献するソディック”として、社是「創造」「実行」「苦労克服」の初心を忘れることなく、技術・生産・販売・サポートと全てにおいて世界一の放電加工機メーカーを目指し、邁進していく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長　塩田 成夫

CONTENTS

Sodick Corporate Highlights ―― 1
株主の皆様へ ―― 2
当期の業績 ―― 3-4
特集 ソディックの成長戦略 ―― 5-6
30周年記念特集 ―― 7-10
連結財務諸表（要旨） ―― 11-12
株式情報／株式分布／株価・出来高の推移 ―― 13
会社概要／役員／株主メモ ―― 14

当期の概況

当社のグループが属しております工作機械業界及び産業機械業界におきましては、原油や金属など素材価格の高騰などがありましたが、欧州経済の回復・中国の高成長維持など海外経済の好調に支えられ順調に推移しました。

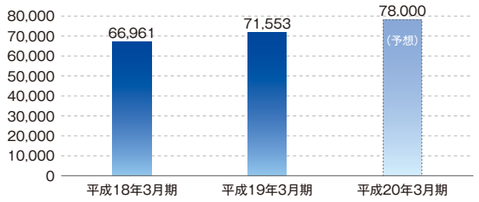
このような環境の下で当社グループは、「ワイヤ放電加工機」の精密加工性能と「ウォータージェット加工機」の高速加工性能を融合した世界初の製品「ハイブリッドワイヤ放電加工機」、難加工材高速加工専用放電加工機「SD3LR」、形彫り放電加工において大幅なコスト削減につながる、電極消耗を限りなくゼロに抑制することを実現した「SGF電源」を発表するなど、お客様のニーズにあった製品開発を進めました。

販売面では、各事業において需要拡大が継続している中国・アジア市場を中心に積極的に展開しました。このような状況において、当連結会計年度の売上高は前年同期比45億92百万円増（6.9%増）の715億53百万円を達成いたしました。また利益面では、研究開発費や販売活動経費の増加により営業利益は前年同期比17億78百万円減（25.3%減）の52億41百万円、経常利益は前年同期比18億86百万円減（22.4%減）の65億41百万円、当期純利益は前年同期比23億62百万円減（38.6%）の37億57百万円となりました。

連結業績ハイライト

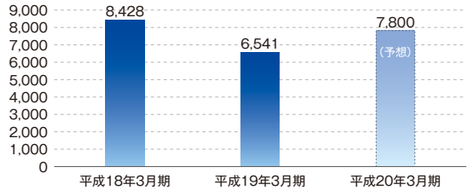
売上高

（単位：百万円）



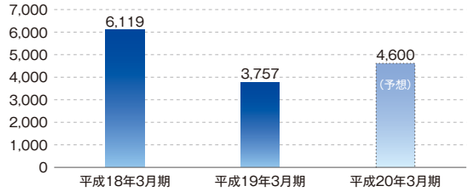
経常利益

（単位：百万円）



当期純利益

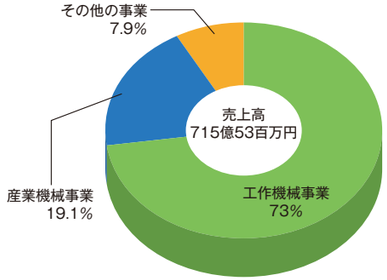
（単位：百万円）



セグメント別概況

工作機械事業

国内市場においては、ＩＴ・ハイテク関連をはじめ幅広い分野で需要が好調だったものの、当連結会計年度下半期には自動車部品用金型向けの設備投資に一服感がみられました。海外市場では、中国を中心にアジアにおいてデジタル家電・ＩＴ関連業界向け販売が好調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同期比47億２百万円増（9.9%増）の522億40百万円となりました。



売上高構成比

産業機械事業

小型精密射出成形機シリーズは、デジタル家電や自動車業界向けに国内及び韓国・台湾等のアジア市場において販売が好調に推移いたしましたが、当連結会計年度下半期に入るとこれらの業界において一部在庫調整等の動きなどもあり、一服感がみられました。また、国内において液晶製造装置や検査装置用の精密ＸＹステージの販売は概ね堅調に推移いたしました。上記の結果、当時業の売上高は、前年同期比3億3百万円増（2.3%増）の137億36百万円となりました。

その他の事業

精密金型・精密成形品の製造販売は、自動車業界向けを中心に順調に推移しましたが、金型統合生産システムについては販売が若干減少したため、当事業の売上高は前年同期比3億80百万円減（6.3%減）の56億57百万円となりました。

■次期業績予想

国内経済では企業部門の好調が当面は継続し、設備投資も好調に推移すると予想されます。また、海外経済はゆるやかな成長に落ち着くと見られます。このような状況の下、平成20年3月期の当社グループの業績を、連結売上高780億円（9.0%増）、連結営業利益78億円（48.8%増）、連結経常利益78億円（19.2%増）、連結当期純利益を46億円（22.4%増）と予想しております。

ソディックの成長戦略

グローバルに躍進する、ソディック
大きく伸びるヨーロッパ市場での取り組みと展望

ソディックグループは、昨年の創業30周年をさらなるグローバル化の出発点と位置づけ、
「世界シェアナンバーワン」を目指して積極的な展開を図ってまいりました。
今回は、東欧を含むヨーロッパ圏の取り組みについて、ご報告いたします。

1 二つの現地法人を設立し、欧州市場で“攻め”の展開を図っています。

ソディックは、イギリスにEU全域をカバーするソディック ヨーロッパを、ドイツに同国内市場を担当するソディック ドイツランドを、それぞれ設立しています。

工作機械は、機械を作るための機械であることから“マザー・マシン”と総称され、長くドイツが世界をリードしてきた歴史がありました。工作機械の本場と目され、高付加価値製品に強い工業集積があるドイツでシェアを獲得することは、世界戦略上、極めて重要です。当社のドイツ国内におけるシェアは2000年に5.4%でしたが、2006年末時点で第3位の13.3%まで急伸しています。

当社製品に対するヨーロッパ市場の評価は高く、自動車産業、エレクトロニクス、メカトロニクス、航空宇宙産業などに販路を構築。ドイツを代表する自動車メーカー数社、世界的に著名なスイスの複数の時計メーカーなどへの納入実績も築いています。

2 独創的な技術と価格競争力が、ソディックの優位性を支えています。

ソディックの優位性は、言うまでもなく、高い技術力と価格競争力にあります。

たとえば、当社製品の特長である「高速・高精度」は、そもそも相反する要素ですが、これを可能にしているのが、以下の4つのコア技術です。

①駆動部への自社開発リニアモータの採用（モータの回転を線運動に変える従来システムと異なり、ロス、バックラッシュを極小化できる）
②セラミックス部材を多用し、熱変形が少なく長時間運転に強い
③極めて精度の高いモーションコントロール技術を搭載
④独創的な放電回路技術の開発

これらが相まって、ソディック製放電加工機は、ライバルであるスイス製やその他西ヨーロッパ製の工作機械をしのぐ性能を実現しています。

また欧州市場向け製品の多くはバンコク（タイ）などで生産されており、高い価格競争力も備えています。

ソディックヨーロッパ
プレジデント
ヤン・ファン・エグモンド

ソディックヨーロッパ
ホールディング
CEO
朝倉 一夫

ソディックドイツランド
プレジデント
ノベルト・ケンプ

3 積極的なマーケティング展開で、シェア30%をめざします。

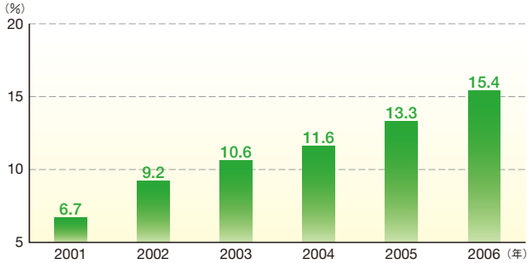
マーケティング面では、EUへの加盟を機に工業投資が活発な東欧諸国に注力。積極的な販売策を展開し、EU圏における当社のシェア拡大に貢献しています。

欧州の工場とまでいわれるチェコには、隣国ドイツをはじめ、日本などの自動車メーカーが工場を建設。部品メーカーも数多く進出しています。EU加盟交渉が行われているトルコにも、日本や韓国から自動車メーカーが進出しているほか、欧州家電メーカーの生産拠点となっており、同国製の冷蔵庫、洗濯機、液晶テレビなどがEU圏の電器店に並ぶ状況にあります。

東欧など新興国は、機種選定に保守的なドイツなどと比べ、当社製品をゼロベースで対等に比較・検討するほか、当社の価格優位性が大きな武器になります。

また販路拡大において、各地の工場をマネジメントする能力が非常に重要です。ソディックグループでは2002年以降、現地密着型のマネジメント方針を策定。トップを含め現地採用を基本とすることで、ビジネスチャンスを確実に活かせる体制を整えてまいりました。EU域では2006年末現在約15.4%のマーケットシェアを獲得しており、日系工作機械メーカーとしてナンバーワンとなっています。今後2～3年内を目処に、EU域内シェア30%を目標に、活動を続けてまいります。

■EU圏内におけるソディックのマーケットシェア



ヨーロッパ地域における拠点

ソディック30周年の軌跡 ―― 中間・期末 連載企画 ――

第2回 1991～2006 躍進期～未来へ

第1回：1976～1990 創業～成長軌道～海外展開へ

前号のあらすじ――1976年夏、当時の放電加工機業界の雄であるジャパックスから独立、産声をあげたソディック。牧野フライス製作所との提携（その後解消）や北陸への工場移転、当時最速での東証第二部への株式上場、工作機械メーカとしては異例であるタイへの工場進出等を経て、大手放電加工機メーカの一角となるまで急成長した。

ジャパックスに資本参加――1980年代後半、円高不況・ブラックマンデーを乗り越え、日本経済は空前の好景気に沸いていた。この時期、ソディックもいわゆる“バブル経済”の恩恵を受け、大量の放電加工機をお客様に販売する事が出来た。

しかしその反面、かつての親会社ジャパックスは、過去の２回の石油ショックや円高不況等で疲弊していた上に、ソディックやその他ライバル会社にシェアを奪われ、経営環境は厳しいものとなっていた。メインバンクや大手鉄鋼メーカによる経営支援も行われたが、優秀な人材が会社を去るなどジャパックスはかつての輝きを失っていた。

1991年4月ソディックはジャパックスが新規に発行する株式を買い取る形で資本参加し、翌年10月には放電加工部門の営業の一部を譲り受けることとなった。子が親を吸収するというこの買収劇に産業界は驚きを隠さず、マスコミも競って取材を行い、発表翌日の新聞各紙の朝刊はこの件を大々的に報じた。

中国事業の展開――ジャパックスに資本参加をしたほぼ同時期に、タイ以外にも生産コスト削減のための新たな進出先としてアジア各国を調査していた。その最中に、中国の上海市にある上海交通大学から放電加工機の引き合いをいただいた。これをきっかけとして、1991年5月に上海交通大学との合弁（ソディック出資80%）で上海沙迪克軟件有限公司を設立し、ソディックの数値制御装置に関わるソフトウェアの開発を行うこととした。設立の狙いは、日本と比べて1/10であるソフトウェアの開発コストである。このソフトウェアの合弁会社の設立が、ソディックが中国へ進出した確かな第一歩となった。中国での放電加工機の生産に関しては、過去に提携先の幹部社員がライバル会社に移籍してしまい計画が頓挫した経験があるので、提携先の研究所や企業との間で信頼関係を重視し慎重に進めた。上海にソフトウェア開発会社を設立して3年後の1994年6月、上海近郊で産業が発展している蘇州市において現地企業との信頼関係が構築できたことを確認し、蘇州沙迪克三光機電有限公司（ソディック出資分25%）を設立した。また、半年後の1994年12月にソディックが蘇州沙迪克特種設備有限公司を設立した際には、相手方より20%資本を受け入れることで同意した。両社の設立に際して、工場建設用地の取得や建設業者の紹介、人材募集等、提携先現地企業の協力が大きく、中国社会の独特の常識や風習等に関

して色々と指導を受ける事が出来た。この事がこの後の中国市場でのビジネス展開に有利に働いたことは言うまでもない。

また、放電加工機の現地生産のためには、良質な鋳物を安いコストで安定的に調達することが必要となる。そのため、翌年1995年9月ソディック、半導体製造装置等を手がけるTOWA㈱、機械商社の㈱兼松KGKに現地の鋳物会社を加えて、蘇州STK鋳造有限公司を設立した。

1990年代後半になると中国及びその周辺地域が将来大きな市場に発展する可能性も大きくなってきたため、北京、上海、香港、台湾などに販売子会社を設立した。更に2000年代に入ると、中国は“世界の工場”と呼ばれ、世界中のものづくり産業が中国への移転を開始した。2003年度に中国（台湾を含める）における放電加工機の販売は、台数ベースで日本国内

1991
- 5月 中国・上海市に上海沙迪克軟件有限公司を設立
- 11月 Sodick,Inc.（米国）本社ビルが完成

1992
- 7月 (株)ソディックエンジニアリング、(株)ソディックプラステック、(株)ソディックニューマテリアル（(株)ソディックEMGに商号変更）を設立

1993
- 5月 機械本体をセラミックで構成された高精度ワイヤ放電加工機「EXC100」を発表

1994
- 4月 シンガポールにSodick Singapore Pte., Ltd.を設立

1995
- 9月 中国・蘇州市に蘇州STK鋳造有限公司を設立

1996
- 5月 モデリング機能を充実させたCAD／CAMシステム「DiPro WIN」を発表

1997
- 1月 台湾にSodick(Taiwan)Co.,Ltd.を設立
- 11月 本社を横浜市都筑区仲町台の「技術・研修センター」に移転
数値制御電源装置「MARK25」、「MARK30」シリーズを同時発表

1998
- 11月 世界初、リニアサーボモータ搭載高速NC形彫り放電加工機「AMシリーズ」を発表

1999
- 4月 国内向け放電加工機の保証期間を3年に延長
3軸にリニアサーボモータを搭載した高速NC形彫り放電加工機「AQシリーズ」を発表

2000
- 1月 リニアサーボモータ搭載NC形彫り放電加工機「AQシリーズ」が日刊工業新聞社「第四二回(九九年一十大新製品賞」と日本経済新聞社の一九九九年日経優秀製品・サービス賞「最優秀賞日経産業新聞賞」を受賞

とほぼ並ぶまでに成長した。この急成長に対応するため、2004年4月、中国における当社ビジネスの統括会社である㈱ソディックCPCを設立した。これにより、販売計画や増産計画、新機種の開発など経営戦略における意思決定をより迅速に行うことが可能となった。その結果もあり、以前は生産コスト削減のためのコストセンターが現在では、プロフィットセンターに姿を変えている。

トータルマニュファクチャリングソリューション――放電加工機は、電子、磁気学、化学、精密測定技術、ソフトウェア開発など幅広い技術から成り立っている。1992年7月、これらの技術を基に新しいビジネスを展開するため㈱ソディックニューマテリアル（㈱ソディックＥＭＧに商号変更）、㈱ソディックプラステックおよび㈱ソディックエンジニアリングの3社を設立した。

㈱ソディックニューマテリアルは、熱膨張率が少なく、絶縁性の高いセラミックスを放電加工機の重要部位に使用するため、研究開発本部の一部署で開発を行ったことからスタートしたものであるが、事業領域としてソディックの事業とは異なるため、別会社とした。独立当初は、ソディックが必要とする部品のみの生産を行っていたが、独自開発を行ったセラミックスが全く異業種のお客様から認められ、2005年度日刊工業新聞社選定「ものづくり部品大賞・部品賞」を「大型セラミックスとエアー軸受け案内」で受賞するなど、年々外販比率が増加している。

㈱ソディックプラステックは、射出成形機の製造販売を主な事業としているが、これはお客様からの「精密加工を行うには従来の射出成形機では困難なので何とかならないか」という相談からスタートした。ソディックは、放電加工機のＮＣ装置の開発で養ったコンピュータ制御・ソフトウェア開発力等を生かし、お客さまに満足していただける製品を開発、事業化を実現した。2001年8月、設立9年にして日本証券業協会に店頭登録（現在JASDAQ市場に上場）を果たした。

㈱ソディックエンジニアリングも金型製作用に最適なCAD/CAMソフトウェアの開発を目的として設立されたが、これもお客様のニーズから発生した会社であった。

顧客第一主義の考え方で事業の多角化に成功したことにより、事業コンセプトであるトータルマニュファクチャリングソリューション（ものづくりに関する事であれば、ソディックに相談すれば全て解決する）を実現した。

リニア旋風――1990年代中ごろより、国際工作機械見本市等でメーカ各社からリニアモータを搭載した機械の出展が相次いで発表されていた。しかし当時は、発熱等技術的な問題や価格面での問題があり、実用化されるのは、ほんの一握りのケースに過ぎなかった。ソディックは、リニアモータの特性は放電加工機の駆動系として最適であると判断し、独自に開発に着手した。技術的問題もクリアされ、従来からの内製技術であるセラミックスや数値制御技術と組み合わせる事によって性能アップに成功、1998年11月には初のリニアサーボモータ搭載形彫り放電加工機である「AMシリーズ」を発表した。翌年には、リニアモータを搭載した新製品を次々に市場に投入した。4月に3軸リニアサーボモータ搭載形彫り放電加工機「AQシリーズ」、リニアサーボモータ搭載のワイヤ放電加工機「AQ325L/AQ550L」、同じくリニアサーボモータ搭載のマシニングセンタ「MC150L」を発表するなど約1年の間に殆どの主力製品のリニア化に成功した。「AQシリーズ」は、日本の金型をはじめとするものづくり産業の生産性向上に大きな影響を与えたことにより、日本経済新聞社の1999年日経優秀製品・サービス賞「最優秀賞日経産業新聞賞」を始め多くの賞を受賞した。

新たな成長戦略へ――2000年以降、ソディックはリニアモータ技術やセラミックス技術、数値制御技術など技術を応用してナノマシン「NANO100」、3D CAD/CAM機能搭載NC装置「LQシリーズ」、電子ビームPIKA面加工装置「EBM」、ナノ放電加工機「AE05」、「ハイブリッドワイヤ放電加工機」など、世の中にないものを続々と発表した。

また生産面では、タイ及び中国工場の生産能力を大幅に拡張し、放電加工機の量販機種の殆どを海外生産に切り替え、コスト競争力の強化を図った。その甲斐もあり2005年1月には世界最速でリニアモータ搭載機の出荷10,000台を達成（その後2006年秋に15,000台を達成）した。

ソディックグループの更なる企業価値向上のため、2005年12月、グループ内の4つの事業からなる㈱ソディックハイテックが、グループ2社目の株式上場を大阪証券取引所の「ニッポン・ニューマーケット・ヘラクレス・スタンダード」において果たした。

2006年6月、ソディックは、タイ工場・中国蘇州工場に続く3番目の海外工場となる「アモイ工場」の建設を発表した。2007年秋にこの新工場の操業開始を予定しており、3年目の2010年度には、1,500台規模の生産が可能となる。

ソディックは、現在の新たな成長戦略を遂行し、放電加工機の世界で売上高、利益、台数、品質などあらゆる面で世界一になることを目指している。

ソディックグループはこれからも、株主の皆様、お客様、社員等、全てのステークホルダーの方々と共に夢を持って歩んでまいりたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

2001
- 8月 (株)ソディックプラステックがジャスダック市場に株式を上場

2002
- 10月 韓国にSodick Korea Co., Ltd.を設立

2003
- 3月 中国・上海市に上海テクニカルセンターを開設

2004
- 5月 Sodick Deutschland GmbH兼ヨーロッパテクニカルセンターをドイツ・シュツットガルトに、Sodick Europe Ltdをイギリス・バーミンガムに設立

2005
- 12月 (株)ソディックハイテックが大阪証券取引所ヘラクレスに株式を上場

2006
- 9月 Sodick Deutschland GmbHの東ドイツ事務所開設
- リニアモータ駆動ハイブリッドワイヤ放電加工機「Hybrid Wire：ハイブリッドワイヤ」を発表

連結財務諸表（要旨） 単位：百万円、単位未満切り捨て

Consolidated Financial Statements

■連結貸借対照表

科目 ＼ 期別	前期（30期）平成18年3月31日現在	当期（31期）平成19年3月31日現在
資産の部		
流動資産	57,081	69,889
現金及び預金	12,228	21,348
受取手形及び売掛金	25,586	26,727
割賦売掛債権	289	276
たな卸資産	16,626	17,456
その他	3,234	5,065
貸倒引当金	△ 884	△ 986
固定資産	25,128	30,588
有形固定資産	18,721	23,116
無形固定資産	1,188	1,232
投資その他の資産	5,219	6,239
投資有価証券	3,624	3,885
長期貸付金	87	79
その他	1,871	2,548
貸倒引当金	△ 364	△ 274
資産合計	82,210	100,477

科目 ＼ 期別	前期（30期）平成18年3月31日現在	当期（31期）平成19年3月31日現在
負債の部		
流動負債	39,965	40,449
支払手形及び買掛金	14,077	13,999
短期借入金	16,368	16,824
1年以内返済予定の長期借入金	1,946	1,727
1年以内償還期限到来の社債	440	300
未払金	2,946	1,700
未払法人税等	954	1,609
その他	3,231	4,285
固定負債	9,823	15,655
社債	3,500	8,100
長期借入金	3,933	4,870
その他	2,387	2,683
負債合計	49,789	56,104
純資産の部		
株主資本	29,428	39,620
資本金	16,848	20,775
資本剰余金	3,032	6,949
利益剰余金	8,997	12,115
自己株式	△ 55	△ 221
評価・換算差額等	—	1,422
少数株主持分	2,993	3,331
その他有価証券評価差額金	696	485
純資産合計	32,421	44,373
負債純資産合計	82,210	100,477

新たな会計基準の導入により、連結貸借対照表における従来の「資本の部」の記載が「純資産の部」に変更されております。
なお、当期「純資産の部」の数値につきましては、同「資本の部」の数値を組み替えて表示しております。

■連結損益計算書

科目 ＼ 期別	前期（30期）平成17年4月1日～平成18年3月31日	当期（31期）平成18年4月1日～平成19年3月31日
売上高	66,961	71,553
売上原価	45,596	49,651
売上総利益	21,364	21,902
販売費及び一般管理費	14,385	16,676
営業利益	7,020	5,241
営業外収益	2,092	2,267
営業外費用	684	967
経常利益	8,428	6,541
特別利益	661	267
特別損失	675	238
税金等調整前当期純利益	8,414	6,570
法人税等調整額	1,855	2,140
当期純利益	6,119	3,757

■連結キャッシュ・フロー計算書

科目 ＼ 期別	前期（30期）平成17年4月1日～平成18年3月31日	当期（31期）平成18年4月1日～平成19年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,909	5,680
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,973	△ 9,059
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,848	11,642
現金及び現金同等物に係る換算差額	275	357
現金及び現金同等物の増減額	4,059	8,620
現金及び現金同等物の期首残高	8,146	12,228
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	41	370
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 18	△ 54
現金及び現金同等物の期末残高	12,228	21,164

■連結株主資本等変動計算書（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

	株主資本						少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	評価・換算差額等合計		
平成18年3月31日残高	16,848	3,032	8,997	△ 55	28,823	604	2,993	32,421
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	3,927	3,917	—	—	7,844	—	—	7,844
剰余金の配当	—	—	△ 870	—	△ 870	—	—	△ 870
役員賞与	—	—	△ 31	—	△ 31	—	—	△ 31
当期純利益	—	—	3,757	—	3,757	—	—	3,757
自己株式の取得	—	—	—	△ 165	△ 165	—	—	△ 165
その他変動額	—	0	262	—	262	—	—	262
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）	3,927	3,917	3,118	△ 165	10,796	817	338	1,155
連結会計年度中の変動額合計								
平成19年3月31日残高	20,775	6,949	12,115	△ 221	39,620	1,422	3,331	44,373

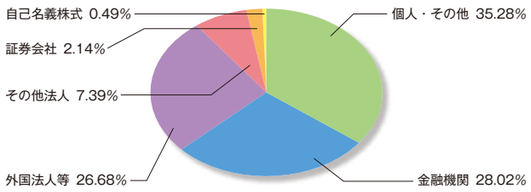
株式情報（平成19年3月31日現在）

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	15,083人

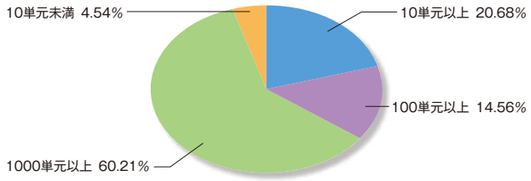
■大株主

株主名	名寄株式数（株）	出資の比率（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	5,236,700	9.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,425,500	4.53
株式会社トム	2,024,246	3.78
バンクオブニューヨークヨーロッパリミテッドルクセンブルグ131800	1,777,800	3.32
日興シティ信託銀行株式会社（投信口）	1,636,100	3.06
クレデイスイスルクセンブルグエスエーデポジタリーバンク	1,565,700	2.93
ユーピーエスエージーロンドンアカウントアイピーピーセグリゲイテッドクライアントアカウント	1,302,400	2.43
日本証券金融株式会社	1,201,700	2.24
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドンエスエルオムニバスアカウント	1,013,800	1.89
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59

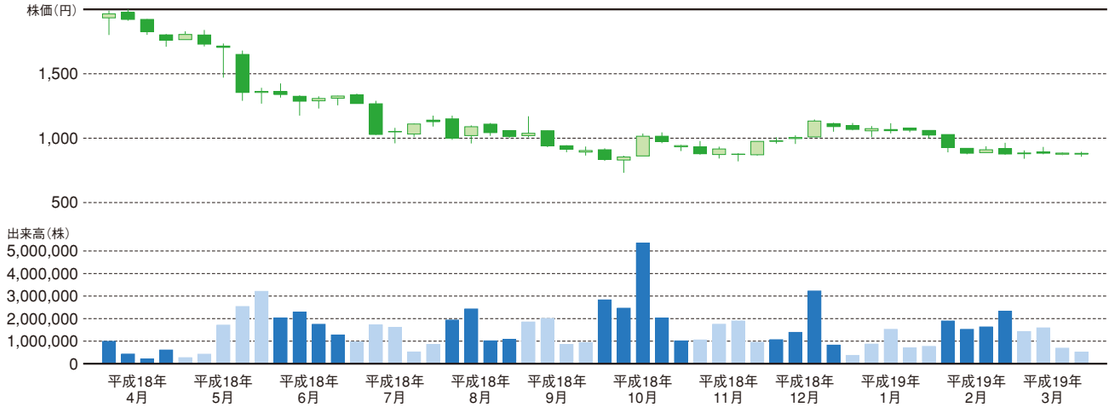
所有者別株式分布状況（平成19年3月31日現在）



所有株式数別株式分布状況（平成19年3月31日現在）



株価・出来高の推移（平成18年4月1日～平成19年3月31日）



会社概要（平成19年3月31日現在）

会　社　名：株式会社ソディック

所　在　地：本社　横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
〒224-8522　TEL：045-942-3111（代表）

設　　立：昭和51年8月3日

資　本　金：207億7,575万6,958円

代　表　者：塩田成夫

従 業 員 数：225人（連結3,239人）※平成19年3月末現在

連結子会社：36社　※平成19年3月末現在

営 業 品 目：
NC形彫り放電加工機／NCワイヤ放電加工機／NC細穴放電加工機／
特殊放電加工機および専用機（パレットチェンジャ，ロボットなど）／
数値制御電源装置／放電加工機専用治具／NC電極加工機／
ハイスピードミーリングセンタ／ナノ加工機／
金型設計製作用CAD/CAMシステム／精密射出成形機／工業用セラミック／
精密リニアプレスセンタ／産業機械向けリニアモータ／その他電気加工装置／
電子部材／各種ソフトウェア／委託研究および製品開発／その他

役員（平成19年3月31日現在）

代表取締役社長	塩田　成夫
専務取締役（生産物流本部担当）	山本　孝志
専務取締役（経営企画担当）	加藤　和夫
常務取締役（営業統括担当）	瀧　　耕二
常務取締役（管理本部 兼 知的財産室担当）	藤原　克英
取締役（研究開発本部本部長）	佐野　定男
取締役（ソディック（厦門）日本カンパニー担当）	市川　剛志
取締役（アドバンスト研究本部本部長）	金子　雄二
取締役（財務部部長）	河本　朋英
常勤監査役	楠　左衛治
常勤監査役	上野　朔生
監査役	下山　貞男
監査役	小山　秋吉
監査役	相原　正雄

※監査役のうち、下山貞男、小山秋吉及び相原正雄は、
会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事　業　年　度：4月1日から翌年3月31日まで

定 時 株 主 総 会：毎年6月

基　　準　　日：定時株主総会／3月31日　期末配当金：3月31日　その他必要がある場合は、予め公告する一定の日

単 元 株 式 数：100株

株主名簿管理人：三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所：東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部

（同 送 付 先）：〒137-8081　東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部　0120-232-711（通話料無料）

同　取　次　所：三菱UFJ信託銀行株式会社　全国各支店
野村證券株式会社　全国本支店

公 告 掲 載 方 法：当社ホームページにおける電子公告

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。
●電話（通話料無料）：0120-244-479（本店証券代行部）　0120-684-479（大阪証券代行部）　●インターネットホームページ：http://www.tr.mufg.jp/daikou/